

# 警城時報

行發日九  
編輯兼發行 岡田弘成  
印刷所 警城時報社  
發行所 警城時報社  
一部金貳圓 一月金卅圓  
廣告料 一行十四字 五十日  
日刊(日曜除) 日翌日休刊

## 平小鐵道の路線は 議會再開前に決る

### 星代議士からの情勢報告に 同盟會必死の運動戦に入る

平小鐵道路線問題に就いては、星代議士は、同町青年會の如く、片濱線由實現期に上げ、十二日か遅くも十三、四年はその祝ひを兼ね別項片濱線成同盟會の結成を見、關係町村日には大舉上京し、最初にして最由實現期成同盟會代表と共に上民學でこれが實現の猛運動を行ふことに決定、京大鐵道線の緣故により平小鐵開始したが、同盟會に就き東京首腦部は今や必死となつて片濱線路線について陳情することに於て奔走中の星代議士から平小鐵大鐵道線の許へ八日、中島、前田新鐵道の事務引(のち)、星代議士から平小鐵道と地方の實情を詳細に具陳し、諒解を求めたこと、川尻政務次官は目下辭表提出中のため、九、十日日實地視察に來平の豫定は見合せとなつたと、平沼首相とも組閣本部に於て會見し同盟會につき善處方を懇請したこと等につき詳細なる運動經過報告の書面があり、諸般の情勢より察するに、平小鐵道路線問題に關する限り内閣の更迭は何等關係なしに議會再開の二十日以前に於て最後の決定が見られるといふ緊迫した事象となり、この際關係者は直ちに上京して陳情戦に入るべきであるとして、陳情を促して來たので同盟會では十六日頃

## 江名青年躍起 大尉講演會

大鐵道線の緣故に、平沼首相へ陳情、聯合主催で九日午後一時から同江名町では去る昭和十二年同日村小學校に同村出身の海軍大尉諏訪神社を改裝した記念に、鈴木莊氏を招き上海、南京、武漢の實地視察の報告を聞いた。平沼首相とも組閣本部に於て會見し同盟會につき善處方を懇請したこと等につき詳細なる運動經過報告の書面があり、諸般の情勢より察するに、平小鐵道路線問題に關する限り内閣の更迭は何等關係なしに議會再開の二十日以前に於て最後の決定が見られるといふ緊迫した事象となり、この際關係者は直ちに上京して陳情戦に入るべきであるとして、陳情を促して來たので同盟會では十六日頃

## 小松氏死去に伴ひ 縣議補欠選舉

### 結局鷲清昇氏出馬か

勿來町出身民政黨縣議員小松章氏秋九月の縣議改選を控へ、臨時の死去に伴ひ縣議補欠選舉は、縣會の招集されぬ限り縣會へも府縣制第三十二條第四項(議員類を出せず、ロボット議員に終死したるとき)に依つて三ヶ月前の關係にあり、時局柄ならぬ相繼が外れてガツカリし、野崎氏の市部出馬が影から不利に轉じた關係から、利に敏な野崎氏は市部立候補を断念、郡部に廻るの説得力化したもの、如く、野崎氏の態度は各方面から注目されてゐる。

競争當選確定的なため、立候補を希望するもの相當あり、部會でも頭を悩まし、圓滿を期する目的の下に部長長である鷲清昇氏を推す説が最も有力視されてゐる。

### 慰問品に是非一本 「たひら羊羹」

如何なる長期間にも  
絶対賛賞せず  
松月堂

## 郡部から出るか 今秋の縣議選舉に

### 注目の野崎氏の態度

縣議員野崎滿藏氏は市會議長の肩書の手前、九月の縣議改選には市部から候補に起ち、關内縣議と一騎打するものと豫想され、野崎派では關内氏との對抗上高全を期し、民政黨本縣支部大會を平市に開いて氣勢を擧げ、午前十時から平第一小學校で開く支部大會を機に比佐派との抗争を解消、提携して關内氏に當るべく策動し、支部大會費用擔を條件に平市開催が殆んど確定的と成つたが、黨支部大會を地方で開いた前例無く、關内氏との對抗を目的に平市へ移動することは、政、民兩派の相刺を刺戟、惡例を残し且つ面から結果を招来する怖れあると幹部の反對に遭ひ、平市に總會開催問題は中止に至つた、前記支部總會で張り切つてゐた野崎派も當が外れてガツカリし、野崎氏の市部出馬が影から不利に轉じた關係から、利に敏な野崎氏は市部立候補を断念、郡部に廻るの説得力化したもの、如く、野崎氏の態度は各方面から注目されてゐる。

## 方面委員任命

湯本町國防婦人分會では皇軍慰問基金造成のため、十一、十二兩日湯本で映畫會を開催する。

## 軍需工業へ七割

### 平第一校卒業生の志望

平第一小學校では今春卒業の児童二百余名出席、縣から岩瀬水産堂に就いて昨秋來就職希望者を課長、笠松技師臨席して定款を調査してゐたがその程まともらびに役員を決定する。

## 舊鎌田橋の改修

### 工費千圓で近く着工

既報、平市舊鎌田橋の改修問題急務を認めて居るから問題なくは過渡平市から神谷村へ設計を施行を認める模様である。向同橋の改修に當り不用となつた鐵材約五百貫あるものでこれを賣却工費の一部に充當するものと見られてゐる。

## 國防獻金

市内新町上組納稅組合では國防として三十圓を九日市役所に寄託。

## 板の間稼ぎ

小名濱町定西居住日本水素工場土木吉田良吉(二六)は七日午後六時から同町松の湯で入浴中の田中保の外妻、絆天等衣類をそつくり失敬し小名濱派出所に檢舉。

## 港内の船火事

七日午後六時小名濱港に碇泊中の同町三代義勝氏所有大勝丸二號煙突附近から發火、漁撈用の大網を焼いて發火したが一時は大騒ぎであつた。

## 整形外科

大河内醫院  
電話(平)五八八番

## 亂暴運搬夫起訴

暴行を加へた上に金を強請つたり一度に入手拜見致しました次好開村大字北好開日曹平鐵業所第であり、武蔵落着の視運搬夫松本幸吉(二五)は九日勝行事は随分賑やかな様子を呈し、事が見えましたが前線將士は武蔵三鎮攻撃戦も同じく戰鬥の一面分に過ぎぬ、これにて事變は何等の局面轉回もなからず、寧ろ戰鬥の支那住民に安住の地を與へ支那を興し支那を經營すること我等若人若人の義務なり、長期戰鬥より登悟なりとばかり祝勝気分などば全然ありません、自分も及ばず乍ら郷黨各位の御後援に御酬ひすべく御奉公の覚悟であります、忙中亂文失禮致します。(本社宛)

## 小松縣議葬儀

十一日午後一時  
勿來町出身縣議員小松章氏は舊臘三十日午前七時福島市公立醫院で死去、葬儀は十一日午後一時から自宅に於て神式に依つて告別式を執行する。

## 殘敵追つて五十里

### 再び武昌に入る

市井茂氏陣中便り  
め市民の各位にもすつかり御無沙汰をして参りました、何卒お祈り願ひ、又御紙を通じて市民各位に御説を申上度う御座います、人馬共に登る八九月の酷暑四十度の炎天下の難行軍も幾度か、今は枯葉の降り、寒冷膚身を刺す様な時は三鎮も陥落し將士の意氣益々肝振たるものがあります、我等も武昌入城後、時を移さず岳陽目指して五十里殘敵を

一日一言 野澤武藏

星代議士と平小鐵道問題

平小鐵道の經由地問題で、片濱通りを絕對的に支持し、沿線町村の運動を指導しつゝある郷土出身星代議士が、本紙既報の如く平小鐵道片濱經由實現の期成同盟會へ運動基金として百圓也寄附、平小鐵道問題ではあらゆる角度から献身的に努力してゐるため、地方民も感激し切つてゐる

政治家が地方民の福利増進のため、努力することは當然の事であつて、星代議士の同鐵道問題に對する運動も當然の事であらう、然し從來の政治家と稱する人々は、報酬を目的に運動を起し、運動費を要求することゝ常然と心得、甚しきに至つては、この運動報酬のために節を賣つて地方民の福利に反き、愕然としてゐる徒輩が多い、平小鐵道問題に於ても、常軌的に片濱經由を支持する者ばかりに拘らず、平市民にあるまじき湯小鐵道を支持するの中心得者があり、これ等の大々たる影響との間に奇怪な現象が介在してゐる如く感されるのも當然であらう

政府が國民の信を失つた原因も、前記の如き政治ブローカーが珍屋してゐるためで、所謂政治家と稱する者は、運動報酬を取るものゝと地方民が考へてゐるので、今度の平小鐵道問題に於て星代議士が運動費を費ふどころか反對に運動基金を提供して片濱經由を支援しつゝあるの行爲は星代議士の清廉な人格を物語つて居り、地方民をして全く敬服せしめてゐる所以である

強電力氣應用 神經痛に特效

新文具御案内 書道用練習筆 長鋒快適 (古梅園製) 華心 (仙臺玉光軒製) 朝陽 (鈴木翠山先生選)

吸入用酸素純度99% モノサシ ハカリ マス 体温器 寒暖計

高久病院 院長 高久忠 副院長 赤羽清 外科長 佐竹菊雄

吉田眼科醫院 平市御屋町(電話六八番)

冷凍魚 日本水産特約(電話三三六・三二六) 卸小賣平製氷會社

電話五九二番 食事を喫茶を兼ねた レストラン サロ 平市銀座街

松村村松 胃腸科 花柳病科 泌尿器科 皮膚科 肛門科

北川外科 醫學博士 北川芳夫 平市新川町(電話四六四)

安田生命 日本共立火災 東京動産火災 平代理店 井上貞治郎

江尻醫院 花柳病科 泌尿器科 皮膚科 門專 診察 午前八時より 午後九時まで (入院隨意)

スポンゴ 滋養にして 強壯の効 著大 肥やし 肉をふやし 血をふやし 肥やし

木村病院 院長 木村真次郎 醫學博士 內木宗八 藥劑師 人岩俊雄

明治生命 鹽屋 平市古鍛冶町 電話 營業部專用一〇番 一般用二七番 振替東京一九七五番